

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100801		
法人名	社会福祉法人 つくし会		
事業所名	グループホーム 百代ハウス		
所在地	〒038-2701 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字北浮田字今須87-1		
自己評価作成日	平成26年7月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>畑・食事づくり・洗濯たみなど利用者が積極的に参加し生きがいとしている。また、行事を工夫し普段外出したがる利用者にも楽しんで頂けるようにしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>敷地内に法人系列の事業所が併設され、定期的に交流が行われており、医療面や防災面についても連携が図られている。事業所内部は、木材がふんだんに使われており、温もりが感じられた。季節の花や観葉植物も至る所に置かれており、穏やかに過ごす事ができる設えになっている。利用者の皆様と、敷地内の菜園で栽培している野菜を、一緒に収穫・調理するなど和気あいあいとした日常を送っている。また、非常災害時には、地域住民の避難場所として受け入れ態勢が整っており、地域との連携は充実している。</p>
--

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに介護目標を貼っており、朝礼で全員で唱和している。	週1回、出勤職員全員で理念を唱和している。また、業務会議内で、困難事例が出た場合は、理念に振り返り、ケアに生かす取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の宵宮への参加、保育園との交流会を毎月1回行っている。毎月ショッピングに出かけたり、地域の方の慰問で楽しまれている。	毎月同法人内で運営している保育園へ行き、利用者や園児が交流を図っている。地域交流として宵宮やお祭りへ参加して、積極的に住民と関わる機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症について説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を行って、前回の報告や意見を参考にしサービスにつなげている。	定期的な開催が確保されており、参加メンバーも役場職員、民生委員、町会長、利用者のご家族と定着している。活動内容や外部評価の報告の他に、ご家族から寄せられた意見を基に、ケアを改善させるなど、検討内容が直接ケアに反映している状況が伺えた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加や、担当者と連絡を密にしている。疑問点は質問し、情報も伝えている。	運営推進会議への参加や、制度について疑問があった場合は、その都度担当者と相談しており、密な連絡体制の確保ができています。身寄りのない利用者に対して、身元保証人の選定等にも、相談・協力してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含め	身体拘束についての勉強会を行い理解している。夜間のみ玄関の施錠をしている。	外部研修参加者が主催者となり、定期的に勉強会を実施している。身体拘束や虐待についての意識を深める取り組みをしている。また、新人職員の教育にも利用者の権利擁護の観点から、身体拘束や虐待について考えてもらうよう、指導している。玄関の施錠は夜間のみ、居室の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は身体的、心理的にあることを定期的に勉強会を開き理解している。また、虐待が疑わしいときには注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例を出して権利擁護についてわかりやすく勉強している。また、必要な時には活用できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、わかりやすく時間をかけ説明している。疑問点、不明点などその都度聞き理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を玄関に設置しているが、実際に使われたことがない。面会の方からの意見、要望などを運営に反映している。	目安箱は設置しているが、ご家族はからの投稿はほとんどない状況である。面会時に、職員が会話の際に、直接要望等を聴取している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行っており、職員からの意見や提案を会議し意見を取り入れている。	管理者と職員が定期的に面談を行い、積極的に意見を取り入れている。職員の意見も汲み取りながら運営している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場内外の研修への参加でやりがいを持ってるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を促しながら、日々の業務での介護力向上を勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域でGH交流会を定期的に行っており、意見の交換やサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望など困っていることに耳を傾け、できることはすぐに対応しサービスにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの意見や要望は、必要に応じて対応し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各サービス担当者が今必要な支援を見極めており、それを日々のサービスに生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のわからないことを利用者いきながら、大先輩としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とこまめに連絡、報告、相談しながら良い関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やなじみの人との関係が途切れないように努め、面会も24時間可能である。出かけた要望があればできるだけ行けるように支援している。	以前通っていたデイサービスセンターへ行き、古くからの友人と交流したり、親戚が入居している併設の特別養護老人ホームへ行っている。自宅や昔からの馴染みの場所へ行きたいというニーズに出来る限り対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考え、テーブル配置、席を考えている。また、トラブルになりそうなときには職員が入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談には受けつけている。また、その旨を退所時に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使い本人の希望、家族の要望を取り入れている。	入居時や家族面会時、個々の生活暦や要望について細かく聞き取り、センター方式を用いて、本人の意向や家族の要望を明らかにしている。だが、サービス担当者会議の際に使用する事が中心となっている状況である。	本人や家族から聴取した情報は、日頃からセンター方式に記入していく事で、更なる思いや意向の把握が可能となるため、センター方式の活用から、良質のケアの提供へ繋げていく事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネ、家族、本人に話を聞き今までの環境を把握してサービスにつながるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定、食事の摂取量、排泄をチェックし一人一人把握している。また、申し送りにて情報を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いを取り入れ管理者・サービス計画担当者・職員がケア会議で検討している。また、定期的に見直ししている。	入居時や面会時に家族の要望を聞き取っている。聞き取った内容を基に、サービス担当者会議で検討している。ケアプランに基づいたケアを実施し定期的なモニタリングで振り返っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りで情報を共有し、出勤時確認している。また申し送りノートでの情報の共有にも努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・買い物・美容室への外出などの援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防職員を招いての消防訓練、各団体との連携、協力体制を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医を利用できる体制である。通院は職員が同行し、家族へ報告している。	入居以前のかかりつけ医へ継続して通院している。状態変化に応じて、その都度主治医とも連携取れており、関係も良好である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員に協力して頂ける、また、相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は入院先の病院と連絡を取りながら情報の交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望にできるだけ応じた対応をしている。入所時に重要事項説明書にて説明している。医療、家族、ケアマネ、職員と交えて今後の対応を検討している。	現在、看取りケアは行わない方針だが、今後、利用者の重度化を考えると、事業所内での看取りケアも検討している。利用者が重度化した場合は、入居時のケアマネと連携して、対応可能な施設を共に探している。	看取りケアを進めていく中で、医療連携は欠かせないため、今後、看取りケアを推進していく中、医療連携に関する整備を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い、緊急時の対応、連絡方法など緊急時の想定で訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した訓練を実施し避難の方法は理解している。地域との協力体制は出来ている。非常食も準備している。	事業所単独で年4回、法人全体で消防署の協力を得ながら年2回、避難訓練を実施している。非常食は、法人全体で3日分は確保している。地域住民へも訓練に参加してもらい、非常時の体制について確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言葉使いや態度を心掛けている。	利用者の人権を念頭に運営に取り組んでいる。また、場面に応じた声のトーンや大きさに配慮するように心掛けている。	食事や排泄など、生活の各場面で、プライバシーに配慮した接し方が大切である。個々を尊重したケアを、全職員が統一して提供できるような体制を整備していく事に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中でなにか希望かを聞き、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活パターンを把握しており、希望があればその都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装、その人の好みにそって支援している。毛染め、パーマなど要望があれば美容室への外出をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度を一緒に行い、準備などできることを支援している。畑をつくり季節の食材を一緒に楽しんでいる。	事業所内にある菜園を活用し、利用者と共に栽培・収穫を行っている。収穫した野菜を、職員と一緒に調理し、皆で食べる事により、やりがいや充実感に繋がっている。また、季節を感じていただけるような食事作りがなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士による献立で食事を作っている。水分量、食事量を毎日記録を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態により毎食後に口腔ケアを行っている場合もあるが、昼食・夕食後に基本的に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人に合った排泄用品を使用し、排泄パターンの把握や、記録を付け職員で情報を共有している。	個々の排泄パターンを把握するべく、申し送りやミーティング等で、情報共有に努めている。定期的な排泄誘導だけでなく、排泄のサインを見逃さず、本人に適した排泄ケアを提供するべく、日々検討を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	朝食前の冷水や、乳酸菌を週3回提供し、水分を取りたがらない高齢者にゼリーの摂取を週2回提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	時間も曜日も決まっているが、希望があれば対応している。	現在、週2回の入浴機会は確保している。その他、個別の希望に合わせて、その都度対応している。利用者から入浴の希望があった際は、いつでも対応できるよう職員を配置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠パターンを把握し、眠れないときには状況に合わせて適切な対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個人のケースに閉じている。通院後に申し送りで、くすりが変わった時には情報を伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできる事での役割があり、嗜好、楽しみを取り入れて生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事として月2回のショッピング、ドライブを行っている。立佞武多見学や、家族の協力でコンサートに出かけている。	月1回外出会を企画し、ドライブやショッピングに出掛けている。また、会話の中から、当日に外出会を実施するなど、利用者の希望に即座に対応できている。その他、家族と一緒に外出したり、周辺地域に散歩に行くなど、多種多様な外出支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との相談にてお金を所持出来、個人に合わせた金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人に電話、手紙等でやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を多く使ったつくりで、間接照明で安らげる干涉つくりをしている。観葉植物や季節の花を飾り心地よく過ごせるように工夫している。	事業所内の至る所が、木の温もりが感じられる設計になっており、安心感につつまれる室内作りであった。季節の花や観葉植物も随所に置かれており、四季を感じられる設えが、とても快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がいつでも自由にくつろげる空間、共有できる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みは自由である。位牌、仏壇を持ち込み本人が心地よく生活出来るようにしている。	仏壇・位牌の持ち込みもあり、在宅からの継続性が伺えた。家具の他、趣味で作成した紙細工や、習字など、個別性を重視した居室作りが行われていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、居室には手すりがあり転倒の可能性のある利用者には居室内を工夫している。		